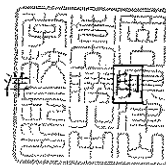


(様式)

平成25年度 津山市立勝北中学校 学校評価書

校長 本郷 泰洋



1 自己評価

I 評価結果

- ・生徒指導のあり方や、情報発信についてはH25年度より、肯定的に受け止められている。
- ・授業がわかりやすいという項目については、ここ数年保護者の評価が低く、改善が必要である。

II 分析・改善方策

- ・「魅力ある授業づくり徹底事業」等を活用し、生徒の学習集団としての質を向上させると共に、教師の授業力をつけることにより、保護者・生徒の授業についての評価を改善する。

2 学校関係者評価委員会

第3回学校評議員会（3月10日）で保護者・生徒の教育調査アンケートの結果を説明し、以下の意見をいただいた。

- ・職員が協力して諸課題に取り組んでいるが、生徒の質が変わってきているのでそれに対応した取り組みが必要である。また、生徒の実態をもっと保護者に知ってもらい、一緒に考えていくことが必要である。
- ・職員の指導に温度差があると徹底が出来ないので、同じ基準で指導できるようにする事が大切である。

3 学校関係者評価

・教育調査アンケートについて教務主任を中心にまとめ、企画会で分析をおこない、職員会議で意見を聞いた（2月中旬）。また、その結果を保護者宛の文書にして配付した。（3月上旬）

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- ・教員の授業力の向上を図る。

（「本時の振り返り」の徹底や、グループ学習、ICT機器の利用により、生徒が意欲的に取り組むメリハリのある授業を行い、授業にかんする評価項目の改善をめざす。）

（勝北中学校の学習規律「学習の三つの決まり」について共通理解を持って取り組むと共に、常に見直しを行い、効果のあるものにして行く。）

- ・過去の調査問題を利用し、苦手とする問題を繰り返し指導する。
- ・今年度作成した、勝北中学校版「学習の手引き」を利用すると共に、効果や問題点を検証し、内容や利用方法の見直しを行い、保護者の授業に対する評価を改善する。
- ・今年度から始めた、中学校区でのノーメディアの取り組みを継続し、さらにその成果を検証し、メディアとの付き合い方を再考すると共に、家庭学習の習慣化に結びつける機会とする。（保・小・中連携）
- ・情報発信にさらに努める。

（中学校区の学校だよりの交流、地域への発信をさらに工夫する。）

- ・規範意識や人権感覚の育成のために、外部の人材を積極的に活用する。

（心と命の教育講演会、性教育講演会、防犯教室など）